くにみ

【第4号】
昭和31年9月1日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　東海林忠一
印刷所　宇佐美印刷所

新たな構想で公民館活動展開

＝新役員の陣容決る＝

この七月で各部長、副部長の任期が終るので、これを機会に各方部館長並びに本館長の改選をした方がよいとされて七月十六日の本館運営審議委員会を最後に各役員が決定致しました。

△新館長
国見町公民館長　佐藤善次郎
小坂公民館長　佐藤善次郎
藤田〃　蓙山亮心
森江野〃　後藤万七
大木戸〃　高橋市郎
大枝〃　瀬戸伝治

△部長副部長
教育部長　菅野七郎
副〃　松浦隆夫
産業部長　後藤清
副〃　高橋伊蔵
社会厚生部長　奥山しま
副〃　佐久間いち
体育部長　佐藤元一
副〃　穂積正
広報部長　東海林忠一
副〃　佐久間幸雄
図書部長　後藤俊雄
副〃　紺野千歳
視聴覚部長　牧野武夫
副〃　玉手繁雄

さあ！一緒に楽しい生活を

公民館は皆様のもの

公民館活動のむつかしさは具体的に物が現れて来ないところにあるので、前役員の方々はこの国見町の皆様に如何にしたら心豊な生活、ゆとりのある生活、合理的な家庭等々に関し、或はスライドを使い、他から先生を招いてお話しをしたりして皆様と共に歩んで来ました。そしてその効果も着々とあらわれて来ましたのです。併しそれは公民館運動の理想から云えばまだほど遠い事なのです。町民の皆様もどし〳〵直接生活に関係ある各部長に連絡して新しい各部長と共に心豊かな生活を致しませう。公民館活動は当事者のものではなく皆様のものなのです。

より身近なものに

今般再び国見町公民館長の委嘱を受けた。創業時代ともいうべき過去二ケ年を顧みて、恂に内心慚恥たらざるを得ない。只管私心を去って、公民館本来の使命達成に精進したいと自戒するのである。

一公民館の行動半径は約二粁と言われている。本公民館の地域は大きに失する憾はないでもないが、一町四ケ村が合併して国見町を形成するからには、町内全区域を一丸とした公民館の存在価値は決して低いものではない。しかも一町融合に大きな役割を有する町公民館は連絡協議会的存在を念願するものである。それにつけてもその衝に当るもゝの一人として責任の一層重大さを痛感するものである。

ヂューエの高弟カウンツは「教育とは（社会教育を含む）福祉社会の創造にあり」と喝破している。正に公民館運動は清新な住みよい郷土の建設に渾身の努力を捧げると共に気を揮ふ事に力を惜しんではならぬと思う。

（館長）

公僕としての議員

町村合併による新しい議会定員が、延長議会の八十六名から二十六名になって一年半を経過した今日、その足跡を反省してみるのもお互に必要であり、且つ有意義であると思われます。

議員は住民の代表者であって代理者ではないという自覚に徹しなければならない。議員の発言と行動は一万五千町民大多数の共鳴と諒解を得るものであり、又大衆の負託に応えるものでなければならぬ。もし我々に希望し、命令するものありとすればそれは一万五千の町民であって、決して特殊な個人や縁故者であってはなりません。こゝに公僕としての議員の良識の問題があると思われます。

議員の代表者としての資格は、直接住民の選挙によって得たものであり、その点執行者としての町長の立場と同じであります。従って議会と町長とは相侵してはならない尊厳的関係にあり、互に抑制し、均衡し、切磋琢磨し、採長補短しなければなりません。独善、横暴、頑迷、偏見、不勉強などの「悪」を排除し、議会という「場」において真に町民の福祉と地域社会の経済開発ということを念頭において発言し、行動されなければならぬ。各種常任委員会の在り方も同様であります。この観点に立って議会は、一面において峻厳に批判すると共に他面において寛容の精神をもって相手の議論に耳を傾ける雅量が必要であります。そこにこそ中道円満にしてしかも進歩的な議会の使命達成の道があると信じます。

議会の品位を高めつゝその機能を発揮し、もって町民の与望に応えるべく日夜精進努力して居りますが、千里の道未だ半ばにも達しません。希くは町民各位も議員の公僕としての職分達成に協力輾撻の労をとられ共々に郷土発展のためお進みあらんことを。

（議長）

＝竣工した＝小坂小体育館

わが町の建設五ケ年計画の一つ小坂小学校屋内体操場新築工事は、昨年末福島市菅野組が工費八百万円（大木戸中体操場共）で請負い同時着工していたがこの程完成、去る八月二十八・九日の二日間にわたって盛大な祝賀行事を行って喜びをわかち合った。

この工事が遅れたことはいろいろ原因はあろうが、どうせ造るなら百年の大計をと工事委員、学校職員が四方八方に飛び他校建物の長所短所をつぶさに視察して研究を重ねて造作設計をしたことに最大の原因があった。

然しこの努力は今実り、そつの無い建築として落成研究の跡が各所に見受られる。

位置は現在の校舎のすぐ裏側に奥行き十四間間口八間（百十二坪）に建てられ屋根はトタン葺き木造モルタル仕上げ、内部の壁は明かるいテックス張り照明設備は二百ワット電球十五ケを取付け、一方暗室設備も完全に出来ている。附属建物の音楽室は四間に六間（二十四坪）で二方が全部ガラス窓で採光充分、正面には四面の黒板を掛けているが、この四面黒板は現在まで県内で福島塾母学院にのみあつたと云うもので大きな自慢の種である。天井の防音設備も完全で情操教育を音楽に求めて努力している鈴木校長の喜びは大きい。こうして遅れたりとは云え近代感覚充分に、加えて至れり尽せりの内容を完備した体操場が建てられた為か現校舎が俄かに古く見えるのも止むを得ない。婦人会でステージ用各種幕、地区協賛会では暗幕一切、請負者菅野組ではステージ用テーブルをそれぞれ寄贈した。体操場正面の壁にはこの程募集して制定された校章がえがかれてあり、新しい校章のもと新しい体操場で、または音楽室でよりよい教育が生まれてくることを期待出来る。

青年団活動を私はこう考える

去る七月、三日間に亘り二本松町岳温泉に於て開催されました県教育委員会、県連合青年会主催の「青年団体指導者講習会」に参加して来ましたが、講習会を顧み、青年団の活動について考えて見度い思います。

最近「青年団は行き詰った」とか「青年活動と家業とは両立しない」と云った事をしば〳〵耳にしますが、その多くは組織面、運営面に於てもまだ前世期の若者的集団の感覚から脱皮しきれないでいる事と、理想追求の意欲を持ち乍も地域社会の封建的な慣習や価値判断に支配されて、新しい青年団の活動を自ら阻んでいるものと思います。

次代を背負う若人の集りである青年団が、いつまでもこんな姿を続けている限り私達青年の真の欲求や興味を満たす事が出来ないばかりか、その存在価値さえ失われてしまう様な事にもなりましよう。

青年団は、青年の自発的な必要に基いて造られた自主的な団体であり、その活動は私達青年の必要と興味、地域の実情に即して行われるのは当然ですが、生活と生産に直結した課題をみんなで研究し、研究した事をみんなで実践してゆく。こうした実践的学習活動を通じてお互の人格を高め、生活を豊かにすると共に、より良い地域社会を建設してゆくところに其の本質があり従来の様な単なる行事本位の行き方は十分に反省しなければならぬと思います。

潜越にも青年団を云々する所以は、もう一度じつくり過去現在の活動を反省して、一般の方々に青年団を正しく理解して戴き度いからであります。

（小坂青若林）

巡回子供会

七月十八・九の両日、福島大学々芸学部の児童文化研究会の巡回子供会が町内各小学校を会場として実施された。一行六名まつ小坂を皮切りに藤田・大木戸・森江野・大枝の各小学校で、絵話・ペープサード・指人形・遊戯・ダンス等で子供たちをよろこばした。

この児童文化研究会は、福島大学々生のグループで会員百二十余名、学習の余暇を利用して児童向の音楽・舞踊・童話・人形劇・児童劇等を研究し、毎年夏休には文化に恵まれない地方を巡回して地域の児童文化活動を芽生えさせ育成し、更に地域社会の人々の児童文化への関心を高めんと努力している。

布撒ホリドール

効果のあった共同作業

ホリドールは水稲二化めい虫の特効薬であるが、同時にその浸透性ある毒性は保健衛生上十分な注意を必要とするのでこれの使用に当っては法律上技術指導員立合の下に共同防除を行い、人の命にあやまち等を起さないようにしなければならないのである。

しかし共同作業はなか〳〵難かしく必ずしも完全には行なわれてはいないようだ。このむつかしい共同防除を実際にはどのように行なわれているか森江野の前原方面を参考にのぞいて見よう。

七月二十一日・二十二日の両日部落四十七戸総出で防除班所有や伊達地方防除所有の動力噴霧機三台と手動噴霧機一台を動員してエンヂンの音も軽やかに防除班長指導の下に一斉に二十二町四反四畝の防除を実施した。

その結果

総経費　五一、三七〇円
薬剤費　ホリドール六五本　二〇、八〇〇円
人件費　延八五人で一人一日三〇〇円支払い　二五、五〇〇円
機具損料　動噴一台三〇〇円　延六台　一、八〇〇円
リヤカー損料　延一六台　九八〇円
食費　パン一七〇ケ　一、五三〇円

その他撚料費、薬剤補損料等諸雑費七六〇円となっている。

この経費を防除面積に応じて農家が負担すると反当二二九円の割で輝しい共同防除の実績を上げることが出来たわけだ。

一方大木戸防除班は七月八日九日の二日間に亘って行われた。

この二化蜈虫は一化期と二化期とあるが、一化期は発蛾期間が長いので産卵及び幼虫の食入は苗代の後半から本田移植後三〜四週間に及ぶのが普通である。しかしホリドールの出現と養家のたゆまざる努力により年々減収石数が減少していることは注目すべきである。

◎よいと思ったことから実行しましょう

◎集会の時間をまもりましょう

収入の一割はぜひ貯蓄しましょう
伊達中央信用金庫
国見支店
電話（藤田）126番　支店長　毛利正利

話合うよろこび

…農村青年と都市学生の交歓座談会…

先般「福島民報・毎日新聞」の二社が共同企画、開催地元公民館の協賛により、全県下に亘つて実施した大学生による農村の実態調査を兼ねた「都市学生と農村の交歓座談会」は、我が国見町でも大木戸地区が開催地の指定を受け、去る七月十六日午後八時より大木戸小学校礼法室で盛会に開かれた。参会者は学生側が福島大学経済学部学生で編成された巡回学生班の松永弘君（原町市出身）を班長とする県北地区第一班の六名（全員二年生）を迎え、一方農村青年側の地元参会者は大木戸方部公民館の推薦を受けた阿部隆夫君等各部落の代表者十五名をはじめ、公民館関係から高橋大木戸方部館長、同穂積主事、又本館より佐藤館長、同鈴木主事らも出席し、その他新聞関係者や有志者など併せて約三十名が集つて、先づ高橋大木戸方部館長から開会の言葉があつてから会の進行上、穂積主事を司会者に選び司会者から学生側六名の紹介で和やかに交歓座談会のフタを開けた。交歓会の内容については特に大きなテーマを定めず、お互いの立場から自由に断片的ではあるが数多くの問題を拾つて話し合つた。

先づ学生側、青年側また司会者の提出した主な話題は、農村青年の悩み、農村婦人の過重労働、男性の婦人に対する理解、農村生活の実態、大学生と社会運動、農村青年の娯楽、青年と劣等感、太陽族について、農村の二・三男対策問題等々でこのほかにもいろ〳〵と意見が交換された。

先づ学生側が持ち出した農村青年の悩みと言う問題について青年側から、お天気を相手とする農業経営のむづかしさや、決して楽ではない農家生活のありのまゝを披露してから更に、私達はより人間らしい楽しく、明るい生活をするための教養を身につける時間的余裕が欲しいと訴えた。次に青年側から学生側に質問を投げた。「大学生と社会運動」については、特に「全学連」の行動は少し行き過ぎと思うがと云う農村青年の純朴な（或は保守的な）意見に対し、学生達は口を揃えて確かに行き過ぎの点はあるが、然し学生の全部が参加しているわけではなく一部の過激分子が先棒を振つているので、一部を見て全部であるような誤解をしないで欲しい。と言葉を強めた。更に大学生は毎日学術に励み真理の探求に余念がなくそのため毎日の生活が非常に単純となり勝ちで一人の社会人として生きたいと言う意慾が湧いてきて生活に直接ひゞく授業料値上等の問題が起きた場合は自らの力で解決を計り或は政治の上に反映させたいと言う心境を理解して欲しいと語つた。

（座談会風景）

さて最后に農村の男性は、婦人に対してもつと理解と協力をすべきでないか。と言う話題（学生側より）に対して青年側の意見として農村婦人の過労が問題となつているだけに確かに、男性はもつと婦人の立場をよく考慮して理解を深め協力してやるべきだとお互に自分のこれまでの婦人に対する態度を反省したが、この問題はひとり農村に限らず社会生活全体の課題でもあると思うが、と青年側は反問して種々話題を投げた。

交歓会は次から次へといろいろの話題に花が咲き、何時語り尽るかわからなかつた。最後に農村青年側から、私達農村の若者は勤労の喜びと共に常に新しい時代の人間として明るく楽しい生活を送るべく努力しているが、今後もこのような機会を持ち互に語り合い、理解し合つて新しい村づくり町づくりに頑張るべきだ。そして学生諸君にはこれを機会に今後時間の許される限り村落へ足を運んで、より高き教養とそしてより新しい文化の芳香を匂わせて欲しいと希望が述べられ、午後十一時過ぎそれ〴〵の立場で次代を背負う若人の「大交歓会」は和やかに、そして盛会裡に幕を下した。（阿部記）

安達太良登山記

本館体育部主催の安達太良登山は絶好の登山日和にめぐまれた七月二十八日に行われた。これは健全なレクリエーションとしての登山を大いに普及しようとして試みられたいわば公民館主催としてはテストケースであつた。

コースは、野地温泉―鬼面山―箕輪山―鉄山―安達太良山―岳温泉という、いわゆる縦走コースに於て行われた。参加者は日露戦争の勇士で七十八才の大長老菊地喜代治さんをはじめ後藤館長、鈴木主事など中学生も混る文字通りの老若男女十三名で、パーテイとしてはなかなかまとまりにくいものであつたが一人の事故もなく全員元気に踏破した。

まず一行は七時の列車で福島へ、バスで野地に向う。そして最初の山、鬼面山に立つたのが丁度正午、こゝで昼食をとる。小憩のゝち野地側から登る際最も困難といわれる箕輪山登りも難なく乗切り、箕輪山頂から磐梯山、秋元湖などの美しい眺望を冷い山風に撫られながら心ゆくまで味う。磐梯朝日国立公園のうちでも最も良い眺めの一つといわれる鉄山の「沼の平」の景観に感嘆し、最終コースの乳首山、安達太良に登つたのは陽もかなり傾いた午後四時半であつた。下りは岳温泉までの一本道で滑つて愛敬をふりまきながら岳温泉に着いたときはさすが皆疲れた様子であつたが岳温泉の背後に雄大にそびえる安達太良連山を仰いで感慨無量の面持である。とに角今回の試みは登山という特殊な行事であるため宣伝も手控えられ、従つて参加者も十三名の小人数であつたがまず成功ということが出来よう。明年はこの登山ばかりでなく町民ハイク・サイクリング等も計画され明るいリクレエーションの普及に大いに公民館がのり出すべきだろう。新生活運動の一環として明るいリクレエーションが今後一層伸びることを祈るものである。（野村記）

（写真は馬背にて）

史跡を訪ねて (1)

石母田供養塔

高橋市郎

文化財保護法によつて国から指定を受けている史跡に我が町内石母田に石母田供養塔のあることは既にご存じの通りである。

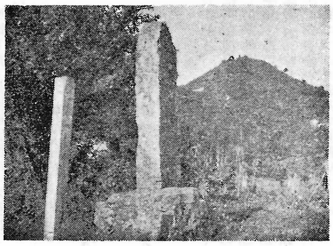
この供養石塔は高さ一・八メートル、幅四五センチ、厚さ左側三六センチ、右二六センチの方形の石柱で、その一面に梵字と塔婆建立の由来を記した功徳文が刻まれているのであるが、元の国から帰化した寧一山の書に成る長文のものとして珍重され、指定を受け保護されているのである。

寧一山は今から六百四十年の昔、正安六年十月八日元の国使として宋僧子雲と共に来朝帰化した名僧であつて、然も帰化後九年を経た徳治三年十一月二十日知瑄謹誌一山一寧書とあるので珍らしいとされている。

本県内の供養塔で石母田供養塔と同じく国の指定を受けているものとして、福島在鳥川鳥渡に阿弥陀三尊来迎像が自然石に刻まれたものがあるが、こうした供養塔が一体どうして建てられたのであるか、それは当時鎌倉時代の仏教思想として心からなる仏心供養の信仰心から、亡親その他の供養のために建立されたもので、現代のような自己の存在を世人に認めてもらうために建てられる頌彰碑などとはその考え方は全く異にしている。

この石母田供養塔によつて鎌倉時代の禅密合一思想の表現をみることができよう。当時建立された供養塔には台石が無いのが通例とされているが、台石のあるのは他より移されたときに取付られたものだと言われている。

×…



【写真は供養塔】

方部公民館便り

◇小坂方部公民館

当町の公民館内図書部の一事業として毎月巡回される貸出文庫の利用に就ては、各方部館に比較して小坂方部館の利用が最も多く、日中は激しい労働に追われ乍らも、昼休み、夕夜の余暇をみては一枚一枚ページをめくる姿に何か力強いものを感じる。又今後の公民館の運営方針に就ては青年団の育成に、主として趣きがおかれ成行きが注目される。

◇藤田方部公民館

藤田方部公民館では、本年度の主眼目標として自主団体の啓蒙とその育成に重点を置き会場や講師の斡旋の労をとる方針で進みたい。と後藤公民館主事は語つている。現在当公民館に於ける自主的な会合としては、花の会や碁会がある。

花の会では、奥山亀一氏を会長とし、今年は主に菊花作りに専心している。本年に入つて二月の下旬と七月の二十四日に福島から講師を招き、菊作りの講習会を開催している。今秋には菊花展覧会を催す予定で、主として大菊が出品される模様である。

碁会では、神津武男氏を会長として四十余名の会員を擁し、毎月第三日曜を例会として小学校礼法室に集り、老若を問わず碁を楽しんでいる風景はほゝ笑ましい。

その他当公民館では活潑に活動している団体は見当らず、公民館では各種の自主団体が結成され、豊かな町造りの為に公民館を利用して一層発展される事を望んでいる。

◇大木戸方部公民館

一、新生活運動の一端方部館として地域社会の課題を一つでもとり上げ、それを解決したいとの念願から七月二十三日社会厚生部会を開き本地域の最もふさわしい新生活運動として何をどう実践すべきかに就いて、夫々の立場から研究討議して次の通り決めた。

各種集会等の時間厳守

病気等の見舞返えし、厄払のだんご貰いはしない。

部落や屋敷の団体貯金を実施する。

二、厚樫の桜の手入

去る四月十七八日厚樫山中腹に、そめいよしの桜五〇〇本を小・中学校児童生徒の手によつて植樹された。その後の生長は頗る順調で、緑の葉を風にそよがせているが、この程地元の管理大木戸区長さんの指揮で部落の協力を得て、下草を払いすつかり手入をして頂いた。殆んど枯れたものが無かつたので、将来を大いに嘱望しつゝ下山した。

◇森江野方部公民館

方部公民館は「こごえた手だ」と云つた人がある。至言と思う。財政的、物的、人的貧困に悩されながらも夢を高く掲げ、もがきながらあせつている姿は「こごえた手」で働く人の姿と変りはない。

現実は如何に厳しくとも、手をこまねいている訳にはいかない。この「こごえた手」を温め、温め努力するのだ。いつかはこの手を真に抱き、温めることに協力する者もあるだろう。

この貧困に満ちた力を各方面にバラ〳〵に向けたならば何をなすことが出来るだろうか。我々はこの貧しい力を青年教育に集中し、ここを拠点にその拡大を図り夢を築こうとするものである。

◇大枝方部公民館

婦人は今日改めて自分の課せられた家庭の中での任務だけでなくして、独立した社会人としての権利と義務を正しく行使しなければならない。又社会の半数を占める婦人の自覚なしに民主社会の改造は出来得なく、又民主政治が確立する事にのみよつて、始めて日本人一人々々が住みよい社会が作り上げられるのであつて、婦人自からの自覚を社会は強く要求してゐる。

婦人学級の教養目標は協同生活発表、生活技術の習得等に分れ、学級編成には特に注意して年令差に依つて要求度合も違うので三部制とした。第一学級四〇才以上、第二学級四〇才以下、第三学級二〇才〜二五才とした。又趣味を向上する意味で踊り、生花音楽、料理等に分かれているのである。

秋の農事メモ

一、各種飼料作物の適期播種

1 草地改良を対象とする牧草の播種は八月下旬〜九月上旬、ライムギ、エンバクの如き青刈作物は十月中旬頃が夫々適期であるからこの時期を目標に実施する。

2 採草地へ牧草を播種草質を改善し、早春用飼料として飼料作物を栽培するには大半適期播種を普及する必要がある。

二、緬・山羊の適期種付

1 繁殖期のものには適正な運動と質のよい飼料を与え健康を整え正常の発情を起させ適期に種付けを実施すること。（目標十月中旬）

2 栄養欠陥と運動不足などが原因して、正常な発情も無く適期種付を逸する向が多いからこれが改善対策を普及する必要がある。

三、冬期間飼料の確立

1 冬期間必要なる各種の飼料の量を検討し必要とする量夫々確保せしむるように希望する。

2 一般に冬期間の飼料確保が不揃で一方に偏した給与が行われるので、数多くの飼料を貯いて均衡のとれた成分の給与をなされるように改善を図る必要がある。

四、不良土壌の検定

農産物の増産並に肥効の増進を図るため、不良土壌の検定を必要とする。

五、良質の堆厩肥の増産

良質堆厩肥を増産し、地力の維持増進を図る必要から堆厩肥の増産を必要とする。

六、施肥の合理化

土壌を検定し作物に適した肥料を選定すること。

（農業改良指導所）